

●講師紹介

FSJG実践経過報告

上田陽子氏

ファーストステップ・ジョブグループ代表。立命館大学衣笠総合研究機構人間科学研究所客員研究員。2002年に「ファーストステップ・ジョブグループ」を提案し、そのグループを結成し活動している。活動の一環として家族対象の勉強会等を行っている。活動を通じ、従来の既存の「ひきこもり」対策と比較・総括しながら、その成果を社会化していくプロセスを実証的に研究している。

<http://www.human.ritsumei.ac.jp/fsjg/>

対人援助学の立場から

望月 昭氏

立命館大学大学院応用人間科学研究科教授。立命館大学人間科学研究所所長。専門は、応用行動分析学の観点からの対人援助における方法論の開発。対人援助の実践をその機能から見直し、「援助」「援護」「教授」の3つの機能的連環で捉えることを提唱し、これまでの学問分野を超えた「対人援助学」(Science for Human Services)という新しい分野の構築に取り組んでいる(2009年秋「日本対人援助学会」発足予定)。主著『発達障害に関する10の倫理的課題』(監訳：二瓶社)、『応用行動分析学入門』(分担執筆：学苑社)、『朝倉心理学講座 対人援助の心理学』(編：朝倉書店)、『対人援助学キーワード集』(共編：晃洋書店)。

連携資源としてのNPOから

野池雅人氏

特定非営利活動法人きょうとNPOセンター 事業統括・プロジェクトマネージャー。(財)大阪市教育振興公社において人権教育担当を

経て、2005年より現職。京都府内のNPO法人や市民活動団体を対象にマネジメントから資金調達にいたるまで総合的なサポートを行っている。そこでは、公共の担い手としてのNPOを支えるために必要な個別相談から、地域における資金や資源循環のしくみづくりにいたるまで幅広い活動を展開している。帝塚山大学非常勤講師。

ひきこもりと家族の研究者から 川北 稔氏

愛知教育大学大学院教育実践研究科講師。2001年ごろから東海地方でひきこもり支援のフィールドワークを開始し、NPOや家族会と当事者グループを行き来している。「ひきこもり」という言葉の登場とともに、医療とは異なる支援活動や、就労のあり方が提案されてきたことに注目。とくに家族がNPOへの参加を通じ、成人子との関係を再構築する模様を、インタビュー等を通じて調べている。近著に『「ひきこもり」への社会的アプローチ』（ミネルヴァ書房、共編著）。
